



Overseas Fishery Cooperation Foundation of Japan

評価報告書

太平洋諸島フォーラム漁業機関 (FFA)
 — 2024 年度 国際資源管理対策推進事業 —
 (終了時評価 2025 年 4 月)

事業概要

国名	太平洋諸島フォーラム漁業機関 (FFA)
プロジェクト名	まぐろ産業アドバイザー (国際資源管理対策推進事業)
実施期間	2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日
相手国政府覚書署名 省庁名及び実施機関	署名機関：太平洋諸島フォーラム漁業機関 (FFA) 実施機関：FFA 事務局

プロジェクト実施の経緯と背景

公益財団法人海外漁業協力財団（以下「財団」という。）は、FFA からの要請を受けて、1989 年から FFA 事務局に対して専門家（海外情報員、漁業アドバイザー、まぐろ産業アドバイザー）を派遣している。

2008 年 5 月にはまぐろ産業アドバイザーが FFA の「中西部太平洋における日本と FFA の相互的協力関係を推進する資金」の資金管理者を兼務する合意書の改正が行われ、現在はこの合意書に基づき海外漁業協力強化推進事業の枠組みの下、専門家を派遣している。



目標・成果・活動内容等

上位目標	日本と FFA メンバー（17 か国・地域）との漁業協力関係の一層の強化
プロジェクト目標	FFA 及び FFA メンバーが実施している種々の事業の効果的・効率的実施に必要な助言及び情報提供を行う。
成 果	専門家が収集・分析・提供した情報及びこれらに基づく助言により、FFA メンバーのカツオ・マグロ産業の振興に繋がる方策が FFA の活動にフィードバックされる。
活 動	<ul style="list-style-type: none"> ① FFA メンバーのカツオ・マグロ産業を含む自国水産業の開発・投資促進に関する助言及び情報提供 ② FFA メンバーのカツオ・マグロ漁業の資源管理に関する助言及び情報提供 ③ FFA メンバーの国際的な義務（地域漁業管理機関の管理措置を含む）の履行にあたっての助言及び情報提供
投 入	<p>財団側</p> <p>1) 専門家 1 名 計画：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日（365 日間） 実績：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日（365 日間）</p> <p>2) 主な資機材 なし</p> <p>相手国側</p> <p>1) 主なカウンターパート FFA 1 名</p> <p>2) プロジェクト関連予算、土地、施設等 FFA 事務局施設（ホニアラ）</p>

評 価 事 項

◆ 妥 当 性

1. プロジェクトの妥当性

FFA の設立趣旨は、域内全体及び FFA メンバーの発展のため、域内の海洋生物資源、特にマグロ類のような高度回遊性魚類の保存と最適利用を通じて、それら資源からの恩恵を最大化することである。このことから、専門家が FFA 事務局に対して行うまぐろ産業に関する

る指導・助言は妥当と判断される。

2. 協力ニーズ（対象国、対象地域）との整合性

カツオ・マグロ産業を含む FFA メンバーの水産業の発展、資源管理等に係る専門家からの助言及び情報提供は、FFA からの要請を受けてその目的に沿った形で実施されていることから、FFA のニーズに合致している。

3. 環境に対する配慮はなされていたか

FFA は、気候変動の影響が加盟国の海面漁業に対する最大の脅威であるとして、2023 年 8 月に「気候変動戦略」を策定し、その対策を FFA の優先活動分野の一つとした。専門家の活動もこの方針に沿って実施されたことから、環境に対して新たな負荷をかけることはなかった。

4. 水産資源に対する配慮はなされていたか

水産資源の持続的利用から得られる社会的・経済的な利益の最大化は、FFA 及び FFA メンバーにとって最も重要な目標であり、FFA が実施する各種事業は勿論のこと、専門家の活動もその目標に沿って実施されており、水産資源に対して常に十分な配慮がなされていた。

5. その他（プロジェクト関連予算、土地、施設等受け入れ態勢は決められたとおりに実行されたか等）

特になし。

◆ 効 率 性

1. 事業費及び実施期間

実施期間は計画どおりとなったことから効率性は高いと言えるが、事業費は若干超過した。

2. 資機材、施設、専門家はタイミングよく投入され、期待された機能、能力を発揮していたか

専門家はタイミングよく投入され、活動項目に沿って活動し、期待された機能及び能力を発揮した。

3. 移転技術はカウンターパートの習得水準に適合していたか

働きかけや助言は、常に FFA 事務局や FFA メンバー関係者とコミュニケーションを密にしながら実施したことから、事務局やそれぞれの国の習得水準に適合していた。

4. 状況の変化、教訓・提言等に応じて実施計画、活動項目は、適宜見直されていたか
特になし。
5. その他（プロジェクトの効率性に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）
特になし。

◆ 有効性

1. プロジェクト目標の達成度

① プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標：FFA 及び FFA 加盟国が実施している種々の事業に対して効果的・効率的な実施に必要な助言及び情報提供を行う。

水産物の加工・保存プロジェクト（旧瓶詰まぐろプロジェクト）のワークショップ、WCPFC 北小委員会の会議、ホニアラサミットに参加し、情報収集や関係者との意見交換を行い、これを自身の活動にフィードバックしながら FFA 及び FFA メンバーが実施している活動に対して必要な助言を行った。

② その他（プロジェクト目標の達成度と外部要因との関係等）

特になし。

2. プロジェクト活動項目及び期待された成果の達成度

① FFA 加盟国のカツオ・マグロ産業を含む自国水産業の開発・投資促進に関する助言及び情報提供

専門家は FFA 事務局に常駐し、FFA 及び FFA メンバーが実施する種々の事業に助言及び情報提供を行った。

② FFA 加盟国のカツオ・マグロ漁業の資源管理に関する助言及び情報提供

日本のまぐろはえ縄船の水揚げ数量や魚価情報を収集し、FFA の統計情報の一部として FFA に提供した。

③ FFA 加盟国の国際的な義務（地域漁業管理機関の管理措置を含む）の履行にあたっての助言及び情報提供

FFA の漁船登録制度について情報収集を行うとともに、必要に応じて我が国水産庁及び関連漁業団体と緊密な情報交換を行い、日本代表団と FFA メンバーとの間の調整役となった。

◆インパクト

1. プロジェクト上位目標の達成に対し、プロジェクト目標の達成の効果はどの程度見込まれるか

専門家が事務局に常駐し、FFA 及び FFA メンバーが実施している種々の事業に助言及び情報提供をすることで、FFA 内における日本のプレゼンスの向上が図られ、プロジェクト上位目標である日本と FFA メンバーとの漁業協力関係の一層の強化につながった。

2. プロジェクトは相手国・対象地域の政策形成、社会・経済等でどのような直接的・間接的な効果または負の影響が見込まれるか

FFA の目標である「カツオ・マグロ資源の持続的利用を通じた加盟国の社会的・経済的利益の最大化」を達成するための最適な方法が常に検討され、様々な形で適宜 FFA メンバーへとフィードバックされる。

3. その他（ターゲットグループに対するインパクトや、プロジェクトの計画当初予見できなかった効果または負の影響が見込まれるか等）

特になし。

◆持続性

1. プロジェクト終了後もカウンターパート及び供与された資機材は有効に活用されるか

専門家の助言は、カウンターパートを含む FFA 事務局のノウハウの中に蓄積されていることから、プロジェクト終了後も FFA 事務局において有効に活用される見込みである。

2. プロジェクト終了後も効果は持続される見込みか

専門家の助言は、カウンターパートを含む FFA 事務局のノウハウの中に蓄積されていることから、プロジェクト終了後もその効果は持続される見込みである。

特に水産物の加工・保存プロジェクト（旧瓶詰まぐろプロジェクト）は、地域社会貢献や女性の自立支援への効果が評価され、FFA として戦略的、重点的に推進していくプロジェクトとして選定された。今後はワークショップで扱う加工品の種類を増やすとともに、実施地域をソロモンからその他の FFA 加盟国に広げる計画となっており、プロジェクトの効果は継続されることが期待できる。

3. その他（持続性に影響を与えると考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

以上